

【要旨】

背景および目的：成人知的障がい（以下「ID」と略す）者の健康問題は2000年の世界保健機構の報告からも世界的に注目すべき課題となっている。一方、報告者の先行研究において、成人ID者の健康保持・増進の図る上で現状の健康診断のあり方・方法について各種の課題が示された。しかしながら、報告者が渉猟した範囲では、国内文献で健康診断全般に渡ったアセスメントツールに関する報告はなかった。

以上の状況を踏まえて、今回、報告者らは海外文献による成人ID者の健康診査およびアセスメントについて文献的検討を行い、若干の知見を得たので報告する。

対象と方法：PubMedより、キーワードを「Health assessment」＋「Intellectual disability」or 「Intellectual disabilities」とし、制限として、言語は「English」、要約付き、データ期間は制限を付けず最新は2009年5月までとし、文献検索した。

結果及び考案：検索によって211文献が該当し、テーマ及び内容から61文献を抽出した。なお、本文が英語でない又は歴史文献等の5文献は除き、計56文献について検討を行った。文献の分類・整理は研究テーマ、発行年、国、対象者、アセスメントツール等に沿って行った。文献数は2005年より徐々に増加し2008年が14件と最も多かった。国別では、英国18件、豪州13件で、両国が主たる研究報告であった。研究テーマおよびアセスメント内容は、成人ID者に対して、包括的な健康アセスメント方法、視覚・聴覚障害の検討、精神障害、ID者特有の有病率、QOL、痛みの評価、提供サービスの評価、認知症、緩和ケアや救急部門でのコミュニケーション、性犯罪等、多岐にわたっていた。結果の詳細については発表時に報告する。

総じては、包括的なヘルスアセスメント、苦痛・痛みの評価方法等、活用可能な項目もあったが、内容的には日本の健康診断に適したアセスメントツールを検討・工夫する必要性が示された。